

# イベントレコーダーの有用性についての検討

国家公務員共済組合連合会 呉共済病院

○徳丸 雄介 西山 博 井手元 千代 稲葉 千里 有北 仁美  
森實 晋平 末田 駿介 植野 友香 小川 仁美 丹下 富士男

## 【はじめに】

不整脈の診断にホルター心電図や簡易携帯型心電計が有用であるが、自覚症状や不整脈の頻度により十分な結果を得られないこともある。それを補うためにイベントレコーダーが用いられるようになってきた。イベントレコーダーは長期間（最長 40 日間）心電図を記録でき、手動記録と不整脈感知による自動記録が可能な携帯型心電計である。

当院では、2013 年 1 月から主としてアブレーション治療後の発作性心房細動（PAF）再発の有無を調べるためにイベントレコーダー（SPIDERFLASH-t AFib）を導入した。

今回、ホルター心電計及び簡易携帯型心電計と比較し有用性を検討したので報告する。

## 【対象・方法】

対象は 2013 年 1 月から 2014 年 4 月までの 16 ヶ月間に検査依頼のあった 30 例（男性：女性＝23：7 平均年齢：64.9±14.8 歳）とした。

内訳はアブレーション治療後の PAF の有無 21 例、症状（動悸、胸痛）の原因精査 3 例、不整脈の精査 6 例であった。

方法は貸出期間 1 週間で、装着後はホルター心電計と同様に 24 時間取り外さずに連続記録、2 日目以降は入浴時だけ取り外し、患者自身で再装着してもらった。症状時と 1 日 3 回（朝、昼、晩）イベントボタンを押ししてもらい、症状時は記録用紙に時刻と症状を記入してもらうよう指導した。

## 【結果】

検出できた不整脈を 1 日目と 2 日目以降に分けて比較すると、1 日目は全 30 例中、SVT19 例、PAF3 例、VT1 例を認めた。2 日目以降のみ検出できたイベントは SVT7 例、PAF5 例、VT2 例、R-R2 秒以上（PAUSE）3 例であった。

症状時イベントボタンを押した回数は計 125 回、そのうち不整脈を検出できたのは 28 回で、検出率は 22.4%であった。

イベント別の解析では SVT は 30 例中 24 例に認め、イベントボタンを押して記録されたものが 2 例（8%）、自動記録されたものが 23 例（96%）であった。PAF は 30 例中 8 例に認め、イベントボタンを押して記録されたものは 8 例（100%）、自動記録で 7 例（88%）であった。VT4 例、PAUSE3 例についてはいずれも自動記録のみで記録された。

## 【考察】

1 日目に重症度の高い不整脈を捉えることは可能であるが、症例によっては 2 日目以降のみで検出でき、長期間の装着が有用であった。

症状時イベントボタンを押していても、症状に一致した不整脈はわずかであり、不整脈の検出率は低かった。イベント別では、SVT はイベントボタンを押して記録されたものに比べ、自動記録による検出率が高かった。その他 VT や PAUSE など、重症度の高い不整脈は自

動記録のみで検出されており、不整脈感知による自動記録が有用であった。

イベントレコーダーは従来の 2 つの心電計の欠点を補っており、不整脈感知に非常に優れている反面、入浴時に患者自身や家族に電極を再装着してもらう必要があり、正しく装着できていない場合、ノイズ混入も多く、解析に苦慮することもあった。

今回、PAF を認めた 8 例中 7 例は自動記録でとらえることができしており、アブレーション治療後の PAF 再発の有無を調べる検査の一つとして有用であると考えられた。

## 【まとめ】

不整脈が疑われていてもホルター心電計や簡易携帯型心電計では、捉えられなかった症例では長期間装着でき、不整脈感知による自動記録が可能なイベントレコーダーが有用であると考えられた。

問い合わせ先

呉共済病院検査部 0823-22-2111 内線 4220